



幼稚園の遊戯(その一)

松村ひさ

千九百九十八年にアメリカで出版された「幼稚園の原理と實際」(Kindergarten Principle and Practice)といふ書は、幼稚園に従事する者にとりては誠に有益なものでございしますが、其中には

保母の技術と天職——自然研究——表號主義
(幼稚園の唱歌及遊戯に於ける表號主義の利用)

——愛國心の教授——フレーベル氏の母の遊戯
——道徳的訓練——幼稚園の遊戯——再び遊戯
に就て——婦人にとりての生活の學校としての幼稚園、

などの題目が掲げられて居ります。之を一々詳しく原文の意味通りに爰に記述する事は逆も私の力に及びませんから、ホシノ處々特に私の感じた處とか先輩から指示された處とかをぬき出しまして之に私の考やら説明やらを加へ、少しづつ書き載せる事に致しませうと思ひます。

今日の處は幼稚園の遊戯といふ處に付てゝござります。一寸御断りいたして置きますが以下此書と申せば右「幼稚園の原理及實際」の事、著者と申せば此書の著者といふ事にいたしします。

(1)フーネル氏の教育主義の内、何處が一番貴い

か

あまり澤山の寶石を見ると、どれもこれも皆一番美はしいと思ふやうに、フレーベル氏の教育主義を見ると何處が最も貴いか分らぬ程に何處もかも貴い。併し大胆に自分の考を言ふと、フレーベル氏の理論に含まれて居る眞理の中で、遊戯に付ての事は最も貴いといふ事が明かに見える。

右の様に著者は言うて居られます。遊戯は子供の生命であり、幼稚園は子供を集めて教育する處である以上、幼稚園教育に従事する者にとつて、遊戯といふ問題は極めて大きな研究すべき事柄でございます。

2) 子供部屋はフレーベル氏の大學で小さな子供は其教授であつた

とございますが、誠に之は万代不易の事柄なので、

子供を一人だけ目の前に置いていさへも、其子供のする事爲す事言ふ事などから種々の事を大人は學ぶ事ができますのに、まして大勢の子供、それが皆十人十色で、違つた家庭に生れ違つた遺傳をもち違つた境遇で教育されて居るのを、毎日目前に並べて見て居る幼稚園の先生達は、實に一方から言へば時々刻々子供から種々の事を教はつて居る様なものでございます。子供はそれ々の心情から様々の事を考へる、言ふ、行ふ、遊ぶ、保母は之を見物して居るのであつて、子供は常に、私は此通りの兒でございませう、かくの教育はかやう／＼の結果を來します、あなたのあの教育法は私をこういふ風にしました、あなたの欠點はこれの通り、子供といふものはこんなものでございませう。など、保母に向て様々の心理學や教育

上の事を示して居るものでございます。誠に昔子供部屋がフーベル氏の大學であつた如く、幼稚園は實に吾々保母の教室で毎日登園する子供は吾々の教師でございます。此活きた教室で毎日學ぶ權利と義務ある私共は、子供といふものを深く觀察研究して如何に之を教育すべきかといふ事を絶えず考へて行かねばなりません。遊戯だけに付て申せば、まづ何故に子供は遊ぶか、何を子供は遊ぶか、如何に子供は遊ぶか、といふ様な極必要な緒の問題からとらへはじめて、實際の子供に付て考へるといふ事は是非せねばならぬ事であると存じます。

(3) 唱歌遊戯の根源はどうであるか
 之は遊んで居る子供を見て居ると分るので、彼等の言語は自ら唱歌となつて居り、彼等の自然の動

作は即ち遊戯をなして居る。遊戯の土臺は子供の自發活動といふ事の上に置かねばならぬ。と著者は言うて居られますが、實に幼稚園の遊戯といふものは申すまでもなく保母の爲の遊戯ではなくて子供の爲の遊戯でございますから、保母が新しい一の遊戯を案出したといふ様な場合にも、十分子供の方になりて、詳しく申すと、保母自身が子供に身を置き子供になつて見て、さて、之でよいかどうかといふ風に考へて、いよくといふ處で採用する事が必要でございます。大人である保母が獨りで考へて、之でよいとか、きれいなとか、おもしろいとか喜んで、セッセと子供に其通り教へ込んで、其子供のするのを見て満足して居る様な事がもしありましたならば、之は保母の爲の遊戯とも申すべきものになります。眞に子供の爲め

なる遊戯とするには絶えず其土臺を子供の上に据え置く事が必要でございませう。即ち、之は子供の自然に適合して居るか、之は子供の爲に眞に教育的であるか、之は子供にこういふ風にさせてよいものであるか、之は子供にとりてどういふ利害得失があるかといふ風に、少しも子供を離れずに考へねばなりません。たとへば大人でも中々解せられぬ様な雅言でできた唱歌に六かしい身振をつけた遊戯を子供にさせた事も、我國で幼稚園のはじまつた頃にはあつたそうでございませうが、之等は當然遊戯の土臺を子供の上に置かなかつた誤りからでございませう。近年こういふ事が段々減じて参りますのは誠に喜ばしい事でございませうが、なほ進で遊戯を眞に子供の爲になる完全なものに近づけたいではございませんか。

(4) 唱歌遊戯の分類

此書では幼稚園の唱歌遊戯を分類して、家族に關するもの、商工業に關するもの、五官に關するもの、天然の生物に關するもの、自然現象に關するもの、恩物作業に關するもの、体操、舞踏進行作法、祈禱と讚美歌、日月星等に關するもの、即席の遊、其日の面白の事の戯曲、など、分類して居ります。之も最も完全な種類別ではないといつた處が、保姆が自分の始終子供にさせて居る遊戯を試みに此分類に由りて別けて見るなり、又は進んで自分で新たな別け方をして見たりするのには有益な事であると思ひます。あれもよい、之も子供が喜ぶと何心なくいろ／＼用ひて居る間には、何時の間にか、或方面に偏して居つて、たとへば動植物に付ての唱歌や遊戯は澤山あつても家族的

のものや商工業的のものが足らぬなどいふ様な事がございますかも知れませぬ。とにかく時々立ちかへつて、自分はどうな類のものを常に用ひて居るのであるかといふ事を省るのは必要な事であらうと存じます

子供の性行

林 壽 祐

子供の性行は予輩青年の素よりよく研究すべきものに非らずも予輩が幾多の子供に接し偶然観察し得たことを試に少しく集めたのです

▲子供の生れた當時は、唯乳汁をのみと、眠ると、糞尿を排出すると、啼くのであるが、少しく手足の利く様になると、睡眠の外或は玩具をいぢつたり、或はテクテクと歩き廻つたり、或は他の者に戯れたりして、一時も静にして居らない。これ體量増進の際であるから、遊動はよく食物消化

との平均をとるのです、小供には運動は特に必要であります。

▲總て己を愛する者を好むは、人間の通性であるが、特に子供にあつては顯著である、母親は如何なる者よりも、最も懇切に子供を愛するから、子供は母親でなければ、夜も明けぬといふ程で、慈悲深き観音様の如く、貴く思つてゐるのです。けれども祖母或は乳母が、熱心に愛撫してやると、眞の母親より却つて祖母或は乳母を好くのがある子供は普通父親より、母親に懐くのですが、繼母であると、奇体に父親を慕ふのです。愛の厚薄によつて好慕に變動あるは人情とみえます。

▲子供は嚴重に育つべきか、將また氣隨氣儘に育つべきか、何れにしても一利一害があります。嚴重は健全なる子供には結構であるが、纖弱なる子